

企業景況・動向調査

●はじめに

「せいしんビジネスクラブ」新春講演会開催時に、当地区企業の景況・動向調査を目的としたアンケートを実施した。概要は以下の通り。

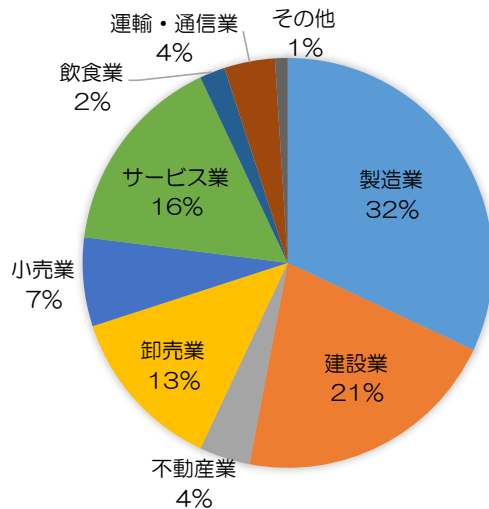
●調査概要

調査時期：令和2年1月28日（火）「せいしんビジネスクラブ 新春講演会」開催時

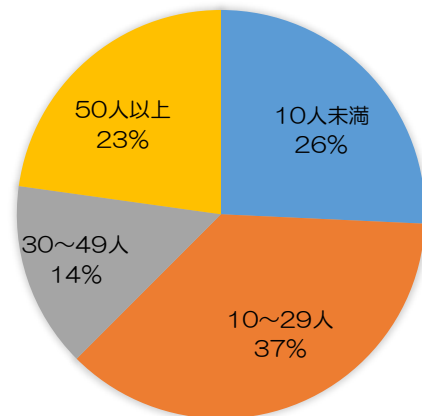
調査対象：静清信用金庫取引先企業の経営者および後継者で構成する異業種交流会
「せいしんビジネスクラブ」会員

調査対象企業数：187社 有効回答企業数：136社 有効回答率：72.7%

《業種内訳 (n=136)》



《従業員規模内訳 (n=136)》



●要旨

～収益面は今後も好調。一方、売上見通しは停滞感が強まる。～

～「個人消費の低迷」を懸念する企業が増加。消費者還元事業の終了も影響か。～

～今後は、企業競争力を高めるため、ITを経営に利活用しようとする動きも見られる。～

◆ 売上高および経常利益の実績と見通しについて

- ・売上高実績（2019年7月～12月）は、「増加」が34.5%、「減少」が24.3%となった。
- ・売上高見通し（2020年1月～6月）は、「増加」が25.7%、「減少」が24.3%と停滞感が強まる。
- ・経常利益実績（2019年7月～12月）は、「黒字」が80.9%と多くの企業が利益を確保した。
- ・経常利益見通し（2020年1月～6月）は、「黒字」が86.8%と、収益面は今後も好調な様子が窺えた。

◆ 雇用状況・採用予定について

- ・現在の雇用状況は、「不足」が50.0%で最多となり、依然として半数の企業が人手不足に悩んでいる。
- ・採用活動については、新卒・非正規での採用予定は少なく、中途での採用を予定する企業が約半数を占め、即戦力人材の確保に注力している様子が窺える。

◆ 設備投資について

- ・現状の設備状況において、「適正」が57.4%で最多となり、中小企業における設備の充足感が高まっている様子が窺える。
- ・今後の設備投資の予定では、世界経済の不確実性の高まりや、売上見通しの停滞感もあってか、「設備投資の予定がない企業」が約半数となり、慎重な企業が多いものと推察される。

◆ 今後の懸念材料・経営課題について

- ・今後の懸念材料は、「人材」に関する事項が突出して高いものの、今年6月には消費者還元事業の終了を控えていることあってか「個人消費の低迷」を懸念する声が高まっている。
- ・今後の経営課題は、「人材の確保・育成」が66.2%で最多となった。依然として「人材の確保・育成」を重視する企業は多いものの、今後はITを経営に利活用しようとする動きも見られた。